２－１　言語学

研究・教育活動の概要と特色

本専攻分野は、対象言語・方法論を問わず、広く言語の全体像を把握するよう努めてきた。本専攻分野の現員は、教授2、准教授1であり、比較言語学、コーパス言語学、言語認知脳科学等の分野で個人研究を推進し、教育に携わっている。特に、小泉准教授が代表者となっている科学研究費基盤研究(S)「OS 型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」では、当研究室の他の教員も協力しつつ、学内および学外の研究者と共同研究により、語順選好の背後にある要因を明らかにして、言語を司る認知機構の解明に貢献しようとする先端的な研究プロジェクトを推進している。これらの活動の概要は、随時、研究室のホームページ (http://www.sal.tohoku.ac.jp/ling/) などを通じて一般に公開している。在籍する学生についても、脳機能計測や行動実験、言語獲得を研究テーマとするものが増え、関連のテーマで学位を取得する者も出ている。それ以外の分野を専攻する学生に対しても、できるだけ図書や設備の充実により研究環境を整えた上で、研究成果の発表を積極的に行うよう指導している。ただし、博士学位取得者の数には年によりむらが見られる。

Ⅰ　組織

１　教員数（2014 年 7 月末現在）

教授:2

准教授:1

講師:0

助教:1

教授:千種眞一、後藤斉

准教授:小泉政利

助教:李 惠正

２　在学生数（2014 年 7 月末現在）

学部 （2 年次以上）	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
40	0	5	13	0

３　修了生・卒業生数（2010～2014 年度）

年度	学部卒業者	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 （含満期退学者）
10	8	1	0
11	3	5	0

12	12	3	1
13	13	3	2
14	0	0	1
計	36	12	4

＊2014 年度は、7 月末までの数字

Ⅱ　過去 5 年間の組織としての研究・教育活動（2010～2014 年度）

１　博士学位授与

１－１　課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
13	2	0	2
14	1	0	1
計	3	0	3

＊2014 年度は、7 月末までの数字。

１－２　博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

孫猛、2013 年度、『日本語母語話者および日本語学習者による文産出の研究 ―眼球運動測定法を用いて―』

審査委員：教授・後藤斉(主査)、教授・千種眞一、教授・行場次朗、准教授・小泉政利

李惠正、2013 年度、『大規模コーパスを用いた接続助詞「から」「ので」の研究－その異同と特性について－』

審査委員：教授・後藤斉(主査)、教授・千種眞一、教授・齊藤倫明、准教授・小泉政利

須田孝司、2014 年度、“The sentence comprehension processes by second language learners: The influence of proficiency and working memory”

審査委員：教授・後藤斉(主査)、教授・千種眞一、教授・行場次朗、准教授・小泉政利

２　大学院生等による論文発表

２－１　論文数

年度	審査制学術誌 （学会誌等）	非審査制誌 （紀要等）	論文集 （単行本）	その他	計
10	3	1	0	0	4
11	2	3	1	2	8
12	3	0	1	0	4
13	2	1	2	0	5
14	0	1	2	1	4
計	10	6	6	3	25

＊2014 年度は 7 月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

２−２　口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	1	4	0	1	6
11	2	7	0	0	9
12	2	12	1	0	15
13	2	2	1	0	5
14	2	4	0	0	6
計	9	29	2	1	41

＊2014 年度は 7 月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

２−３　上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

（１） 論文

孫猛・小泉政利・玉岡賀津雄・宮岡弥生「第二言語としての「テイル」の習得におけるプロトタイプの形成」『言語科学論集』14, 2010.

金春香「中国朝鮮族の二言語使用について」『言語科学論集』14, 2010.

孫猛・小泉政利・玉岡賀津雄・宮岡弥生「第二言語としての「テイル」の習得における語彙・文法能力の役割」『言語学論集』19, 2010.

Einar Andreas Helgason “On the grammatical category of spurious resultative predicates” 『言語科学論集』15, 2011.

Satoshi Imamura & Masatoshi Koizumi “A Centering Analysis of Word Order in Japanese” 『言語科学論集』第 20 号 2011.

金春香「中国朝鮮族小学校のバイリンガル教育について」『日本研究Ｉ』2011.

金春香・金情浩・千種眞一「中国朝鮮族児童の L2 習得による L1 使用への影響について」『言語学論集』20, 2011.

須田孝司「より良い支援策を求めて」『英語教育』Vol.60 No.7, 2011[書評].

須田孝司「学習言語とは何か」『英語教育』2011 年[Book Reviews].

須田孝司「初期段階における日本人英語学習者の文処理方略」『言語研究』139, 2011.

李在濬「人間関係による意識と言語・非言語行動の違い-日韓大学生の感謝と挨拶程度の場面に対する行動を中心に-」『言語科学論集』16, 2012.

孫猛・小泉政利・玉岡賀津雄・宮岡弥生「日本語「テイル」形の習得に関する一考察―学習者の語彙能力の推移という視点から―」『日语教育和日本学研究－大学日语教育研究国际研讨会论文集』2012.

李在濬「日韓の人間関係による言語使用の違い-親疎・上下関係を中心に」『日語日文学』60 大韓日語日文学会 2013.

尹惠靖「Yahoo!知恵袋の質問文における「前置き」及び「後置き」の使用に関する一考察」韓国日語日文学会 2013 年夏国際学術大会予稿集 2013.

尹惠靖「일본어 의뢰 E-mail 에 있어서의 전치(前置)표현과 후치(後置)표현의 사용과 그 의도에 관한 일고찰(日本語の依頼 E-mail における前置き表現と後置き表現の使用とその意図に関する一考察)」『한일 언어 커뮤니케이션 연구(韓日言語コミュニケーションの研究) 』 태학사 (太學社) 2013.

劉寧「日中両言語における呼称詞についての対照研究―ポライトネス理論の観点から―」『東北大学言語学論集』第 22 号, 2013.

李在濬「日韓の人間関係による言語使用の違い-親疎・上下関係を中心に」60, 2013.

須田孝司「第二言語文処理における統語構造の影響」『富山県立大学紀要』24, 2014.

Satoshi Imamura, Einar Andreas Helgason, Masatoshi Koizumi「Functional analysis of Japanese passives」『日本語用論学会第 16 回大会論文集』2014.

Seiichiro Kikuchi「Review of Bridget D. Samules, Phonological Architecture: A Biolinguistic Perspective」『Studies in English Literature』(『英文学研究』英文号), 2014[書評].

（２）口頭発表

Yusa Noriaki, Jungho Kim, Masatoshi Koizumi, Motoaki Sugiura, Sanae Yamaguchi, Satoru Yokoyama, Kei Takahashi, Yoko Mano, Youngho Cho, Ryuta Kawashima. “The Impact of Social Interaction on the Post-Puberty Second Language Acquisition of Syntax.” 16th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping. June 6-10, 2010, the Catalonia Palace of Congresses, Barcelona, Spain.

須田孝司「初期段階の第二言語学習者は語彙情報だけを使うのか？」日本第二言語習得学会第 10 回年次大会　2010 年 6 月 13 日　岐阜大学

須田孝司「初期段階の第二言語処理における手がかり」言語科学会第 12 回年次国際大会 2010 年 6 月 27 日 電気通信大学

須田孝司「早期英語教育って、、、」富山県立大学市町村連携公開講座 2010 年 7 月 17 日 高周波文化ホール

須田孝司「実験心理学的手法によるデータ収集」日本第二言語習得学会 2010 年度夏季セミナーワークショップ 2010 年 8 月 21 日 八王子セミナーハウス

須田孝司「日本人英語学習者による受身の処理」日本第二言語習得学会 2010 年度夏季セミナー 2010 年 8 月 22 日 八王子セミナーハウス

Suda, Koji "The effects of syntactic and semantic information on L2 processing at early stages" 6th International Conference on Language Acquisition, 9/10/2010, University of Barcelona

河内健志「フェイズ理論に フェイズ理論に フェイズ理論に おける右周辺部 おける右周辺部 おける右周辺部 現象 と線形 順序 化」日本比較文化学会, 2010 年 12 月 11 日, 弘前学院大学.

金春香「第二言語習得による第一言語への影響について-中国朝鮮族を対象として」第二言語習得学会,2011 年 6 月 11 日,文教大学.

金春香「バイリンガル児童の言語使用について」母語.・継承語・バイリンガル教育研究会, 2011 年 8 月 6 日, 立命館大学.

金春香「バイリンガル児童のL2 習得によるL1 使用への影響について-中国朝鮮族を対象として-」中日韓朝言語文化比較研究会, 2011 年 8 月 23 日, 中国延辺大学.

酒見和樹・杉本英樹・加藤幸子・猪俣克弘・中西英二「アルミナ含有透明低線膨張フィルムの調製」第 60 回高分子討論会, 2011 年 9 月 28 日, 岡山大学.

須田孝司「日本人英語学習者の文処理における作動記憶容量と習熟度の影響」日本第二言語習得学会 2012 年 6 月 2 日法政大学.

今村怜・小泉政利「かき混ぜ文とゼロ目的語の談話機能における相補分布性」第 144 回日本言語学会, 2012 年 6 月 16 日, 東京外国語大学.

李在濬「人間関係と意識から見られる言葉遣いの違い―韓日の文化的要因と親疎・上下関係―」韓国日本語学会, 2012 年 9 月 15 日, Hanbat National University.

Kato, Sachiko, Daichi Yasunaga, Ayaka Sugawara, Hadas Kotek, Miwako Hisagi, Michael Yoshitaka Erlewine, Shigeru Miyagawa, and Masatoshi Koizumi. “Blocking in Japanese Causatives: an ERP Study.” The experimental syntax-semantic lab meeting, September 20, 2012, MIT.

Einar Andreas Helgason “Event structure and agreement violations in Icelandic

resultatives” 日本言語学会第 145 回大会, 2012 年 11 月 24 日, 九州大学.

朴俌徑「形容詞の獲得における事物の典型的な属性と非典型的な属性の区別」日本言語学会 2012 年 11 月 24 日 九州大学.

尹惠靖「電子メディアのコミュニケーションにおける展開パターンに関する一考察―Yahoo!知恵袋の質問を資料にて―」韓国日語日文学会 2012 年 12 月 17 日 韓国ソウル

菊池清一郎「Diphthongs and prosodic templates in Spanish diminutive formation」東京音韻論研究会－招待講演, 2013 年 5 月 18 日, 東京大学.

Bogdanova Kseniya「A few notes on the paraphrase of reflexive passive and 3rd person plural constructions」Constructional and Lexical Semantic Approaches to Russian, 12–14 September 2013, Saint Petersburg, Russia.

Satoshi IMAMURA, Einar Andreas HELGASON, and Masatoshi KOIZUMI「A Functional Analysis of Japanese Passives」日本語用論学会第 16 回大会, 2013 年 12 月 7 日, 慶應義塾大学.

王 軒「色彩語メタファー表現に関する研究―「バラ色」と「灰色」を例にして」第 5 回コーパス日本語学ワークショップ, 2014 年 3 月 6 日, 国立国語研究所.

朴俌徑「形容詞による属性叙述表現の構造に基づく意味分析」第 5 回コーパス日本語学ワークショップ, 2014 年 3 月 7 日, 国立国語研究所.

尹惠靖「電子コミュニケーションにおける談話展開に関する一考察－知識・スキルを問う質問を中心に－」韓国日本言語文化学会, 2014 年 5 月 10 日, 韓国ソウル崇實大學校.

劉 寧「日中両言語における呼称詞についての対照研究」2014 年度日本語教育と日本学研究国際シンポジウム, 2014 年 5 月 17 日, 中国・上海・同済大学.

須田孝司「How do differences of proficiency levels and working memory capacities influence L2 processing?」日本第二言語習得学会第 14 回年次大会, 2014 年 5 月 31 日, 関西学院大学.

遊佐 麻友子, 金 情浩, 小泉 政利「日本人英語学習者の文産出における主語動詞一致誘引」日本言語学会第 148 回大会, 2014 年 6 月 8 日, 法政大学.

３　大学院生・学部生等の受賞状況

なし。

４　日本学術振興会研究員採択状況

2010年度　PD　1

５　留学・留学生受け入れ

５−１　大学院生・学部学生等の留学数

2012年度 学部 ウプサラ大学 スエーデン 1名

2013年度 学部 カナダ 1名

５−２　留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
10	1	0	1
11	2	1	3
12	0	6	6
13	0	1	1
14	0	1	1
計	3	9	12

６　社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
10	0	0	0
11	0	1	1
12	1	0	1
13	0	0	0
14	0	0	0
計	1	1	2

７　専攻分野出身の研究者・高度職業人

７−１　専攻分野出身の研究者

孫猛（中国・浙江外国語学院大学欧亜語言文化学院日語系 専任講師、2014年度）

７−２　専攻分野出身の高度職業人

なし

８　客員研究員の受け入れ状況

なし

９　外国人研究者の受け入れ状況

なし

１０　刊行物

『東北大学 言語学論集』 年刊

『東北大学大学院文学研究科 言語科学論集』年刊（言語科学専攻として発行）

１１　学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2010 年

言語学講演会　外池滋生(青山学院大学)「ミニマリスト・プログラムと日英語比較統語論」.

2011 年

言語学講演会 池本優(Ph.D. エセックス大学)「日本語使役動詞の心理言語学研究」

2012 年

言語学講演会 Hadas Kotek (MIT) Experimental investigations of *Most*

言語学講演会　菅原彩加氏 (MIT) Nature of QR Evidence from first language acquisition of ACD (joint work with Hadas Kotek)

言語学講演会　久木身和子氏(CUNY & MIT) Brain Bases of Language Acquisition: ERP indices of speech processing in Monolinguals, Bilinguals & Second Language Learners

言語学講演会 Michael 芳貴 Erlewine (MIT) Kaqchikel Agent Focus: new evidence from multiple extraction constructions

言語学講演会　宮川繁 (MIT) Is human language made up of two fundamentally different "language" systems found in the animal world?

言語学講演会　島田純理(PhD. MIT) Self-Unfolding Trees: Morphosyntax and Semantics of Head Movement

言語学講演会 Kazuko Yatsushiro and Uli Sauerland (ZAS Berlin) "The Complex Syntactic Structure of Question Acts"

言語学講演会　Uli Sauerland (ZAS Berlin) "Patterns in Person Paradigms: A Statistical Approach"

2013 年

言語学講演会　Kazuko Yatsushiro and Uli Sauerland (ZAS Berlin) "Children are More Pragmatic than Adults in Relative Clause Production"

言語学講演会　Uli Sauerland (ZAS Berlin) "Obligatory Presuppositional Marking and Alternative Semantics"

歴史言語学会 第３回大会開催（11.30-12.1）

2014 年

なし

１２　専攻分野主催の研究会等活動状況

本研究室では、機会のあるたびに世界最先端の研究を行っている国内外の研究者や若手研究者を講師として、研究情報の交換をするとともに、英語で議論する練習をする場を提供することも目的として、言語学講演会を開催している。また、大学院生を中心とした読書会や勉強会の開催を奨励している。2013年度には歴史言語学会 第3回大会の開催に際して、会場校として運営にあたった。

１３　組織としての研究・教育活動に関する過去５年間の自己点検と評価

現在の教員の主たる研究の関心は、比較言語学、コーパス言語学、理論言語学・言語認知脳科学と多様であるため、専攻分野として統一的な活動はしにくいところもあるが、小泉准教授が代表者となっている科学研究費基盤研究(S)「OS 型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」には、他の二人の教員も協力しており、相互補完的な関心の広がりの中にむしろ専攻分野としての活力を示していると言える。現在、本専攻分野においては准教授 1 名が欠員であるが、現員において可能な限りカバーし、研究と教育の広がりと深さを確保すべく努めている。

とりわけ、小泉准教授は新しい分野である言語認知脳科学の開拓に積極的に取り組み、学内および学外の研究者・研究室と共同して fMRI や脳波計などの非侵襲的脳機能計測器を用いた文処理・文理解の研究および言語獲得の研究に力を入れており、その成果は国内ではもちろん、国際的にも高く評価されている。また、後藤教授が早くから携わってきた日本語のコーパス研究は、現在では日本語学の中で大きな潮流となってきている。

本専攻分野では従来から図書や専門雑誌の充実につとめてきており、音声分析装置等の機器類も早くから備えてきた。近年には脳波形、光トポグラフィ装置等の設備を設置し、実験室を充実させて、研究に活用している。しかし、一部の雑誌については、予算の制約から、購読を取りやめざるをえない状況になっている。

大学院学生では、従来は理論言語学や個別言語学など伝統的な分野を専門とする者が多かったが、近年は脳機能計測や行動実験、言語獲得、コーパス研究を研究テーマとする者が増えてきた。学部生にも同様の傾向が見られる。この分野は学際的な性質をもっているため、他研究科や他機関の研究者・研究室との交流を持つよう、あるいは、外部の研究会やワークショップに参加するよう指導しており、学生の側からの自発的な活動も見られるようになってきた。学位取得者には、年によりむらがある。また、本研究室では毎年『東北大学 言語学論集』および国語学研究室・日本語教育学研究室と共同して『東北大学大学院文学研究科 言語科学論集』を毎年発行している。両論集とも大学院生が主な執筆者となり、学内・外の研究室・研究機関に配布しており、自身の研究を定期的にまとめ上げる機会を提供できているものと考えている。ただし、残念ながら大学院の入学者・進学者は定員を満たすだけには達しておらず、今後の研究活動の活性化のためには課題である。

Ⅲ　教員の研究活動（2010～2014 年度）

１　教員による論文発表等

１－１　論文

千種眞一「アルメニア語新約聖書における罪と報い」.『東北大学言語学論集』19, 1-16, 2010.

後藤斉「コロケーションを考えるためのいくつかの視点」、『日本エスペラント学会 2010 年度研究発表会予稿集』、（日本エスペラント学会）、2010.10

小泉政利「第 6 章 言語」村上郁也（編著）『イラストレクチャー 認知神経科学』pp.89-106. オーム社. 2010.

Utsugi, Akira, Masatoshi Koizumi and Reiko Mazuka. “A robust method to detect dialectal differences in the perception of lexical pitch accent.” *Proceedings of 20th International Congress on Acoustics*, 1-8, 2010.

Koizumi, Masatoshi, and Katsuo Tamaoka. “Psycholinguistic evidence for the VP-internal subject position in Japanese.” *Linguistic Inquiry* 41: 663–680, 2010.

小泉政利「文の産出と理解」、遊佐典昭（編著）『言語と哲学・心理学』pp.219-248. 朝倉書店. 2010.

孫猛・小泉政利·玉岡賀津雄·宮岡弥生「第二言語としての「テイル」の習得におけるプロトタイプの形成」、『東北大学言語科学論集』14 号, pp.27-38. 2010.

孫猛・小泉政利・玉岡賀津雄・宮岡弥生「第二言語としての「テイル」の習得における語彙・文法能力の役割」、『東北大学言語学論集』19 号, pp.47-59. 2010.

小泉政利「幼稚園での英語活動が母語の意味処理の発達に与える影響」、『基礎心理学研究 29』pp. 155-158. 2010.

Takahashi, Junichi, Yuika Suzuki, Hiroshi Shibata, Yuichiro Fukumitsu, Jiro Gyoba, Hiroko Hagiwara, Masatoshi Koizumi. “Effects of non-native language exposure on the semantic processing of native language in preschool children.” *Neuroscience Research* 69, 246–251. 2011.

Yusa, Noriaki, Masatoshi Koizumi, Jungho Kim, Naoki Kimura, Shinya Uchida, Satoru Yokoyama, Naoki Miura, Ryuta Kawashima, Hiroko Hagiwara “Second-language instinct and instruction effects: Nature and nurture in second-language acquisition.” *Journal of Cognitive Neuroscience* 23: 2716-2730. 2011.

Souta Hidaka, Hiroshi Shibata, Michiyo Kurihara, Akihiro Tanaka, Akitsugu Konno, Suguru Maruyama, Jiro Gyoba, Hiroko Hagiwara, Masatoshi Koizumi “Effect of second language exposure on brain activity for language processing among preschoolers.” *Neuroscience Research* 73:73-9. 2011.

Imamura, Satoshi, and Masatoshi Koizumi “A centering analysis of word order in Japanese.” *Tohoku Studies in Linguistics* 20: 59-74, 2011.

久保拓也・小野創・田中幹大・小泉政利・酒井弘「VOS 言語において有生性が語順に与える影響 –カクチケル語における線画描写課題での検討」、『信学技報』(電子情報通信学会技術研究報告 TL2011)、 vol. 111、 pp.19−24. 電子情報通信学会. 2011.

大滝宏一・杉崎鉱司・遊佐典昭・小泉政利「カクチケル語における項削除の可否について」、『日本言語学会第 143 回大会予稿集』、pp. 28-33. 2011.

小泉政利・金情浩・木山幸子・八杉佳穂・Lolmay Pedro García Matzar・Juan Esteban Ajsivinac Sián「SO 語順選好は普遍的か？ —カクチケル・マヤ語の聴解実験による検証—」、『日本言語学会第 143 回大会予稿集』、pp.274-279. 2011.

小泉政利・八杉佳穂・Lolmay Pedro García Matzar・Juan Esteban Ajsivinac Sián「多言語使用—グアテマラの挑戦」、『日本言語学会第 143 回大会予稿集』、pp.358-363. 2011.

孫猛・小泉政利「副詞と主語の語順から見た中国語節左方周縁部の階層構造」、影山太郎・沈力（編）『日中理論言語学の新展望 1 統語構造』pp.85-107. くろしお出版. 2011.

李惠正「日本語コーパスからみた接続助詞「から」と「ので」」『日語日文学』52, 2011.

李惠正「接続助詞「から」/「ので」と推量表現-日本語コーパスを用いて」韓国日本学連

合会　国際学術大会発表論文集 2011.

Koizumi, Masatoshi, Jungho Kim, Naoki Kimura, Satoru Yokoyama, Shigeru Sato, Kaoru Horie and Ryuta Kawashima “Left Inferior Frontal Activations Differentially Modulated by Scrambling in Ditransitive Sentences.” *The Open Medical Imaging Journal* 6: 70-79. 2012.

Inubushi, Tomoo, Kazuki Iijima, Masatoshi Koizumi, Kuniyoshi L. Sakai “Left inferior frontal activations depending on the canonicity determined by the argument structures of ditransitive sentences: An MEG study.” *PloS ONE* 7(5): e37192. 2012.

今村 怜・小泉 政利「かき混ぜ文とゼロ目的語の談話機能における相補分布性」、『日本言語学会第 144 回大会予稿集』、pp 86-91, 2012.

那須川訓也・八杉 佳穂・小泉 政利.「カクチケル語における韻律境界標識と音韻構造」、『日本言語学会第 145 回大会予稿集』、pp 52-57, 2012.

小泉政利「主語のスクランブリングは可能だ」、畠山雄二（編）『日英語の構文研究から探る理論言語学の可能性』、pp. 125-139. 開拓社. 2012.

ガルシア、ロルマイ・ペドロ、大森裕巳、八杉佳穂、小泉政利「マヤ諸語の標準語化：カクチケル語の場合」、『言語学論集』21: 71-78, 2012.

八杉佳穂・小泉政利「カクチケル語の焦点化講文についての一考察」、『言語学論集』21: 61-70, 2012.

アフシウィナック・シアン、フアン・エステバン、大森裕巳、八杉佳穂、小泉政利「カクチケル語の完了相における態変化」、『言語学論集』21: 49-60, 2012.

朴 俌徑・小泉 政利.「形容詞の獲得における事物の典型的な属性と非典型的な属性の区別」、『日本言語学会第 145 回大会予稿集』、pp 22-27, 2012.11.

金情浩・八杉佳穂、Juan Esteban Ajsivinac Sian、Lolmay Pedro Oscar García Mátzar、小泉政利「カクチケル・マヤ語の統語的基本語順：文解析実験を用いた検討」、『言語研究』143: 81-93, 2013.3.

安永大地・矢野雅貴・小泉政利・八杉佳穂.「カクチケル語の基本語順と選好語順の関係について」、『日本言語学会第 146 回大会予稿集』、pp 240-245, 2013.6.

Kiyama, Sachiko, Katsuo Tamaoka, Jungho Kim, and Masatoshi Koizumi. “Effect of Animacy on Word Order Processing in Kaqchikel Maya.” *Open Journal of Modern Linguistics* 3 (3), 2013.

Otaki, Koichi, Koji Sugisaki, Noriaki Yusa, and Masatoshi Koizumi. “The Parameter of argument ellipsis: The view from Kaqchikel.” In Michael Kenstowicz (ed), *Studies in Kaqchikel Grammar*, pp. 153-162, 2013. MITWPL.

Nasukawa, Kuniya, Yoshiho Yasugi, Masatoshi Koizumi. “Syllable structure and the head parameter in Kaqchikel.” In Michael Kenstowicz (ed), *Studies in Kaqchikel Grammar*, pp. 81-95, 2013. MITWPL.

Sato, Yutaka, Akira Utsugi, Naoto Yamane, Masatoshi Koizumi, and Reiko Mazuka. “Dialectal differences in hemispheric specialization for Japanese lexical pitch accent.” *Brain and Language* 127: 475-483, October 2013.

Koizumi, Masatoshi. “On the scramblability of the subject in Japanese.” In Yoichi Miyamoto, Daiko Takahashi, Hideki Maki, Masao Ochi, Koji Sugisaki, Asako Uchibori (Eds.) *Deep Insights, Broad Perspectives — Essays in Honor of Mamoru Saito* —, pp. 218-234, 2013 年 11 月. Tokyo: Kaitakusha.

Sugisaki, Koji, Koichi Otaki, Noriaki Yusa, and Masatoshi Koizumi. “The Acquisition of word order and its constraints in Kaqchikel: A preliminary study.” Selected Proceedings of the 5th GALANA Conference, ed. Chia-Ying Chu et al., pp. 72-78, 2014. Somerville: Cascadilla Proceedings Project.

遊佐麻友子・金情浩・小泉政利.「日本人英語学習者の文産出における主語動詞一致誘引」、『日本言語学会第 146 回大会予稿集』, pp 182-187, 2014 年 6 月.

李惠正「接続助詞「から」/「ので」ー日本語コーパスを用いて」『日語日文学』53 韓国/大韓日語日文学会 2012.

李惠正「文体の違いからみた接続助詞「から」と「ので」- 丁寧体と普通体を比較して」『日語日文学』55 韓国/大韓日語日文学会 2012.

李惠正「接続助詞「から」/「ので」の接続文体について- 日本語コーパスを用いて」『日語日文学』第 57 巻 大韓日語日文学会(韓国) 2013.

１－２　著書・編著

千種眞一『古典アルメニア語辞典』 大学書林, 2013.6.

後藤斉編『日本エスペラント運動人名事典』(共編) ひつじ書房, 2013.10.

１－３　翻訳、書評、解説、辞典項目等

後藤斉「de vorto al vorto (7) klara」『エスペラント』第 78 巻 1 月号, 14-15, 2010.

後藤斉「de vorto al vorto (8) danki」『エスペラント』第 78 巻 2 月号, 7-8, 2010.

後藤斉「de vorto al vorto (9) bela」『エスペラント』第 78 巻 3 月号, 12-13, 2010.

後藤斉「de vorto al vorto (10) peni」『エスペラント』第 78 巻 4 月号, 12-13, 2010.

後藤斉「de vorto al vorto (11) flanko」『エスペラント』第 78 巻 5 月号, 12-13, 2010.

後藤斉「de vorto al vorto (12) profunda」『エスペラント』第 78 巻 6 月号, 12-13, 2010.
後藤斉「de vorto al vorto (13) tuj と baldaŭ」『エスペラント』第 78 巻 7 月号, 14-15, 2010.
後藤斉「de vorto al vorto (14) maniero」『エスペラント』第 78 巻 10 月号, , 2010.
後藤斉「de vorto al vorto (15) zorgi」『エスペラント』第 78 巻 11 月号,12-13 , 2010.
後藤斉「de vorto al vorto (16) riĉa『エスペラント』第 78 巻 12 月号, 12-13, 2010.
後藤斉「de vorto al vorto (17) flui『エスペラント』第 79 巻 1 月号, 15-16, 2011.
後藤斉「de vorto al vorto (18) forta『エスペラント』第 79 巻 2 月号, 11-12, 2011.
後藤斉「de vorto al vorto (19) kosti『エスペラント』第 79 巻 3 月号, 11-12, 2011.
後藤斉「de vorto al vorto (20) okazi『エスペラント』第 79 巻 4 月号, 11-12, 2011.
後藤斉「de vorto al vorto (21) pluvo『エスペラント』第 79 巻 6 月号, 11-12, 2011.
後藤斉「de vorto al vorto (22) peza『エスペラント』第 79 巻 7 月号, 23-24, 2011.
後藤斉「de vorto al vorto (23) plori『エスペラント』第 79 巻 10 月号, 2011.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (1)」『La Movado』707 号, 8, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (2)」『La Movado』708 号, 7, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (3)」『La Movado』709 号, 8, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (4)」『La Movado』710 号, 8, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (5)」『La Movado』711 号, 7, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (6)」『La Movado』712 号, 7, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (7)」『La Movado』713 号, 7, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (8)」『La Movado』714 号, 7, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (9)」『La Movado』715 号, 13, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (10)」『La Movado』716 号, 7, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (11)」『La Movado』717 号, 8, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (12)」『La Movado』718 号, 6, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (13)」『La Movado』719 号, 10, 2011.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (14)」『La Movado』720 号, 8-9, 2011.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (15)」『La Movado』721 号, 8-9, 2011.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (16)」『La Movado』722 号, 8-9, 2011.
後藤斉「Marta の二つの日本語訳 (1)」『La Movado』725 号, 8-9, 2011.
後藤斉「Marta の二つの日本語訳 (2)」『La Movado』727 号, 6-7, 2011.
後藤斉「エスペラント文化史の試み」『エスペラント』第 79 巻 11 月号, 20-24, 2011.
後藤斉「de vorto al vorto (24) morti」『エスペラント』第 79 巻 11 月号,11-12 , 2011.
後藤斉「de vorto al vorto (25) ŝuldi」『エスペラント』第 80 巻 1 月号, 12-13, 2012.

後藤斉「de vorto al vorto (26) nepre」『エスペラント』第 80 巻 2 月号, 9-10, 2012.

後藤斉「de vorto al vorto (27) ĝui」『エスペラント』第 80 巻 3 月号, 9-10, 2012.

後藤斉「de vorto al vorto (28) kreski」『エスペラント』第 80 巻 4 月号, 11-12, 2012.

後藤斉「de vorto al vorto (29) perdi」『エスペラント』第 80 巻 5 月号, 18-19, 2012.

後藤斉「de vorto al vorto (30) rekta」『エスペラント』第 80 巻 6 月号, 21-22, 2012.

後藤斉「de vorto al vorto (31) ligi」『エスペラント』第 80 巻 7 月号, 20-21, 2012.

後藤斉「de vorto al vorto (32) kapti」『エスペラント』第 80 巻 8 月号, 7-8, 2012.

後藤斉「de vorto al vorto (33) trafi」『エスペラント』第 80 巻 10 月号, 22-23, 2012.

後藤斉「de vorto al vorto (34) akra」『エスペラント』第 80 巻 11 月号, 23-24, 2012.

後藤斉「de vorto al vorto (35) favora」『エスペラント』第 80 巻 12 月号, 9-10, 2012.

後藤斉「世界人マラン」『エスペラント』第 80 巻 7 月号, 4-6, 2012.

後藤斉「Marta, 幻の第三の日本語訳」『La Movado』741 号, 4-5, 2012.

GOTOO Hitosi. 'Review: Detlev Blanke and Ulrich Lins (eds.). La arto labori kune: Festlibro por Humphrey Tonkin.' In: *Language Problems and Language Planning* 36:1, 95-97, 2012.

後藤斉「de vorto al vorto (36) ŝovi」『エスペラント』第 81 巻 1 月号, 20-21, 2013.

後藤斉「de vorto al vorto (37) trudi」『エスペラント』第 81 巻 2 月号, 20-21, 2013.

後藤斉「de vorto al vorto (38) simpla」『エスペラント』第 81 巻 3 月号, 20-21, 2013.

後藤斉「【資料紹介】1941 年の朝鮮語実験音声学論文」『東北大学言語学論集』第 22 号, 15-28, 2013.9.

後藤斉「『張赫宙日本語作品選』『朝鮮時論』」野間秀樹編『韓国・朝鮮の知を読む』(クオン, 360-362, 2014.2.

１－４　口頭発表

千種眞一（招待講演）「日本語の誤用分析と社会言語学」. 2010 年9月、延辺大学（中国・延辺）.

千種眞一（招待講演）「日本語の生態と言語学」（「2011 年度日本語教育と日本語学国際シンポジウム」. 2011 年 5 月、同済大学（中国・上海）.

千種眞一（招待講演）「再建と類型論―印欧祖語をめぐって―」. 日本歴史言語学会 第2回大会. 2012 年 12 月、千葉大学.

後藤斉「コロケーションを考えるためのいくつかの視点」. 日本エスペラント学会 2010 年度研究発表会（2010 年 10 月 9 日、長崎ブリックホール）.

後藤斉「エスペラントづいた柳田國男」. 東北大学大学院文学研究科東北文化研究室

公開講演会 柳田國男五十年祭記念シンポジウム「柳田國男と東北大学」(2011 年 11 月 20 日、東北大学).

後藤斉(招待講演)「日本近代史のなかのエスペラント」. 第 100 回記念日本エスペラント大会(2013 年 10 月 13 日、東京都江戸川区、タワーホール船堀).

Yusa, Noriaki, Kuniya Nasukawa, Masatoshi Koizumi, Kim Jungho, Naoki Kimura and Kensuke Emura. “Unexpected effects of the second language on the first.” New Sounds 2010. May 1-3, Adam Mickiewicz University, Poznan, Poland.

Utsugi, Akira, Masatoshi Koizumi and Reiko Mazuka. “The perception of non-native lexical pitch accent by speakers of ‘accentless’ Japanese dialects.” The Fifth International Conference on Speech Prosody, Speech Prosody 2010. May 11-14, 2010, the Doubletree Magnificent Mile, Chicago.

小泉政利(招待講演)「幼稚園での英語活動が母語の意味処理の発達に与える影響」日本基礎心理学会 2010 年度第 1 回フォーラム、2010 年 5 月 22 日、東京大学本郷キャンパス.

Yusa, Noriaki, Jungho Kim, Masatoshi Koizumi, Motoaki Sugiura, Sanae Yamaguchi, Satoru Yokoyama, Kei Takahashi, Yoko Mano, Youngho Cho, Ryuta Kawashima. “The Impact of Social Interaction on the Post-Puberty Second Language Acquisition of Syntax.” 16th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping. June 6-10, 2010, the Catalonia Palace of Congresses, Barcelona, Spain.

Utsugi, Akira, Masatoshi Koizumi and Reiko Mazuka. “A robust method to detect dialectal differences in the perception of lexical pitch accent.” 20th International Congress on Acoustics. August 23-27, 2010, the Sydney Convention Centre, Sydney, Australia.

孫猛・玉岡賀津雄・宮岡弥生・小泉政利・安永大地.「中国語母語話者による「テイル」の意味の習得について」日本語教育と日本学研究国際シンポジウム、2011 年 5 月 21 日(土)～22 日(日)、同済大学、中国上海.

小泉政利(招待講演)「言語発達の脳科学―幼稚園での英語活動をめぐって―」、関西言語学会第 36 回大会、2011 年 6 月 11 日、大阪府立大学.

久保琢也・小野創・田中幹大・小泉政利・酒井弘.「VOS 言語において有生性が語順に与える影響－カクチケル語における線画描写課題での検討－」、「思考と言語研究会」と MAPLL 2011 (Mental Architecture for Processing and Learning of Language 2011) 共催研究会、2011 年 8 月 5 日、広島大学.

小泉政利.(招待講演)「カクチケル語の理解と産出」、第 10 回関西心理言語学研究会 (KCP)、2011 年 9 月 9 日、関西学院大学.

小泉政利・金情浩・木山幸子・八杉佳穂・Lolmay Pedro García Matzar・Juan Esteban Ajsivinac Sián.「SO 語順選好は普遍的か？―カクチケル・マヤ語の聴解実験による検証―」、日本言語学会第 143 回大会、2011 年 11 月 26 日、大阪大学.

大滝宏一・杉崎鉱司・遊佐典昭・小泉政利.「カクチケル語における項削除の可否について」、日本言語学会第 143 回大会、2011 年 11 月 26 日、大阪大学.

小泉政利・八杉佳穂・Lolmay Pedro García Matzar・Juan Esteban Ajsivinac Sián「多言語使用―グアテマラの挑戦」、日本言語学会第 143 回大会、2011 年 11 月 26 日、大阪大学.

李惠正「日本語コーパスを用いた接続助詞「から」/「ので」－前件を中心に」韓国日本学連合会第 9 回国際学術大会, 2011 年 7 月 1 日, 韓国大邱啓明大学.

Koizumi, Masatoshi. (Invited) “On the Word Order Preference in the Kaqchikel Mayan Language”. The Centre for General Linguistics (ZAS), Berlin Germany, May 16, 2012.

Koizumi, Masatoshi. (Invited) “On the Subject-Object Word Order Preference in Sentence Processing”. 8th Workshop on Altaic Formal Linguistics, Stuttgart Germany, 20 May 2012.

今村怜・小泉政利.「かき混ぜ文とゼロ目的語の談話機能における相補分布性」、日本言語学会第 144 回大会、2012 年 6 月 16 日、東京外国語大学.

小泉政利.（招待講演）「語順選好の認知脳科学」、2012 年 6 月 22 日　三重大学.

Koizumi, Masatoshi, Katsuo Tamoaka, Pedro García Matzar, Juan Ajsivinac Sian, Jungho Kim, Yoshiho Yasugi, Sachiko Kiyama. “Orden en el procesamiento de palabras en Kaqchikel.” Formal Approaches to Mayan Linguistics II, Patzun, Guatemala, August 3, 2012.

Nasukawa, Kuniya, Yoshito Yasugi and Masatoshi Koizumi. “Aspiration and prosodic structure in Kaqchikel”. LAGB Annual Meeting 2012, University of Salford, Manchester, September 6, 2012.

Koizumi, Masatoshi. (Invited) “On the Subject-Object Word Order Preference in Sentence Comprehension (and Production).” Ling-Lunch, September 20, 2012, MIT.

Kato, Sachiko, Daichi Yasunaga, Ayaka Sugawara, Hadas Kotek, Miwako Hisagi, Michael Yoshitaka Erlewine, Shigeru Miyagawa, and Masatoshi Koizumi. (Invited) “Blocking in Japanese Causatives: an ERP Study.” The experimental syntax-semantic lab meeting, September 20, 2012, MIT.

Koizumi, Masatoshi. (Invited) “Experimental Syntax: Case Studies with Word Order in

Sentence Processing." Syntax of a Language (Family) Seminar, September 24, 2012, MIT.

Koizumi, Masatoshi. (Invited) "On the Universality of the Subject-Object Word Order Preference in Sentence Processing." Formal Approaches to Japanese Linguistics 6, September 28, 2012, Humboldt University, Berlin, Germany.

Sugisaki, Koji, Koichi Otaki, Noriaki Yusa, and Masatoshi Koizumi. The Acquisition of Word Order and its Constraints in Kaqchikel: A Preliminary Study. The 5th Generative Approaches to Language Acquisition-North America (GALANA 5), University of Kansas, October 11-13、2012.

那須川訓也・八杉 佳穂・小泉 政利.「カクチケル語における韻律境界標識と音韻構造」、日本言語学会第 145 回大会、九州大学、2012 年 11 月 24 日.

朴 俌徑・小泉 政利.「形容詞の獲得における事物の典型的な属性と非典型的な属性の区別」、日本言語学会第 145 回大会、九州大学、2012 年 11 月 24 日.

安永大地・矢野雅貴・小泉政利・八杉佳穂.「カクチケル語の基本語順と選好語順の関係について」、日本言語学会第 146 回大会、茨城大学、2013 年 6 月 16 日.

Koizumi, Masatoshi. (Invited) "On the (Non-)Universality of 'the Subject-before-Object Order Preference' in Sentence Processing. July 10, 2013, National Tsing Hua University, Taipei.

小泉政利.（招待講演）「目的語の有生性がカクチケル・マヤ語の文処理負荷に与える影響について」、日本英語学会第 31 回大会、2013 年 11 月 10 日.

Imamura, Satoshi, Einar Andreas Helgason, Masatoshi Koizumi. "Functional Analysis of Japanese Passives." The Pragmatics Society of Japan 16th Annual Conference. December 8, 2013, Keio University.

小泉政利.（招待講演）「言語と思考の順序―OS 型言語からみた人間言語のデザイン―」, 慶應言語学コロキアム, 2014 年 2 月 1 日・2 日.

Koizumi, Masatoshi. (Invited) "The Position of the Subject." May 15, 2014, International Christian University.

小泉政利.（招待講演）「言語と思考の順序：カクチケル語からみた人間言語のデザイン」, NINJAL コロキウム, 2014 年 5 月 20 日, 国立国語研究所.

遊佐麻友子・金情浩・小泉政利.「日本人英語学習者の文産出における主語動詞一致誘引」、日本言語学会第 148 回大会、法政大学、2014 年 6 月 7 日.

李惠正「接続助詞「から」と「ので」に関する一考察 ―前件のモダリティとの共起を手掛かりにして―」第 4 回コーパス日本語学ワークショップ, 2013 年 9 月 5 日, 国立国語

研究所.

２　教員の受賞歴（2010～2014 年度）

小泉政利　日本言語学会第 143 回大会発表賞受賞（2011 年度）

小泉政利　東北大学全学教育貢献賞（2012 年度）

小泉政利　日本言語学会第 146 回大会発表賞受賞（2013 年度）

Ⅳ　教員による競争的資金獲得（2010～2014 度）

（１）科学研究費補助金

2010 年度

基盤研究(C)　千種眞一　研究代表者「アルメニア語新約聖書語彙の比較分析とシソーラスの作成」 500,000 円

基盤研究(C) 後藤斉　研究代表者「コーパス利用のコロケーション記述の理論と方法に関する通言語的研究」 500,000 円

基盤研究(S)　小泉政利　研究代表者 「OS 型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」 21,100,000 円

基盤研究(B)　小泉政利　研究分担者 「敏感期以降における日本人英語学習者の、冠詞、時制の獲得に関する理論的・実証的研究」 250,000 円

特別研究員奨励費　小泉政利　受入研究者 「文法形式と韻律形式の相互作用が文処理に与える影響についての神経心理言語学的研究」 1,000,000 円

基盤研究(B)　金情浩　研究分担者 「敏感期以降における日本人英語学習者の、冠詞、時制の獲得に関する理論的・実証的研究」 250,000 円

2011 年度

基盤研究(C)　千種眞一　研究代表者「アルメニア語新約聖書における談話戦略の比較研究」 1,300,000 円

基盤研究(C) 後藤斉　研究代表者「コーパス利用のコロケーション記述の理論と方法に関する通言語的研究」 300,000 円

基盤研究(S)　小泉政利　研究代表者 「OS 型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」 68,800,000 円

基盤研究(B)　小泉政利　研究分担者 「敏感期以降における日本人英語学習者の、冠詞、時制の獲得に関する理論的・実証的研究」 250,000 円

特別研究員奨励費　小泉政利　受入研究者 「文法形式と韻律形式の相互作用が文処理に与える影響についての神経心理言語学的研究」 900,000 円

若手研究(B)　金情浩　研究代表者「外国語学習レベルの変化が脳内処理に与える影響」 1,500,000 円

基盤研究(B)　金情浩　研究分担者「敏感期以降における日本人英語学習者の、冠詞、時制の獲得に関する理論的・実証的研究」 250,000 円

2012 年度

基盤研究(C)　千種眞一　研究代表者「アルメニア語新約聖書における談話戦略の比較研究」 900,000 円

基盤研究(S)　小泉政利　研究代表者 「OS 型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」 23,100,000 円

特別研究員奨励費　小泉政利　受入研究者 「文法形式と韻律形式の相互作用が文処理に与える影響についての神経心理言語学的研究」 900,000 円

2013 年度

基盤研究(C)　千種眞一　研究代表者「アルメニア語新約聖書における談話戦略の比較研究」 700,000 円

基盤研究(S)　小泉政利　研究代表者 「OS 型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」 35,80,000 円

2014 年度

基盤研究(S)　小泉政利　研究代表者 「OS 型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」 17,200,000 円

挑戦的萌芽研究　小泉政利　研究代表者「「思考の順序」と「言語の語順」との関係を解明する新たな研究手法の開発」 2,600,000 円

（２）その他

2013 年度

東北大学大学院文学研究科長裁量経費 千種眞一「日本歴史言語学会第 3 回大会における講演会開催」 200,000 円

Ⅴ　教員による社会貢献（2010～2014 年度）

千種眞一

2010 年 10 月第 3 期齋理蔵の講座「辞書論から見た大槻文彦の『大言海』」

後藤斉

2006 年度～2010 年度　科学研究費特定領域「日本語コーパス」外部評価委員

2010 年 5 月 29 日、宮城県宮城野高等学校特別講座「学問の世界」において「言語

学の世界」を講義

2011 年 6 月 11 日 財団法人日本エスペラント学会「エスペラントの日」記念講演「エスペラント言語文化史の試み」

2011 年 7 月 16 日　宮城県仙台第一高等学校において、東北大学公開講座「辞書学の試み」

2011 年 9 月 14 日　みやぎ県民大学において講義「ことばをとらえる　―コーパスの可能性―」

2011 年 10 月 9 日　日韓共同開催エスペラント大会において講演「日韓をつなぐエスペラント―大山時雄とその時代」

2011 年 10 月 27 日　第 53 回東北エスペラント大会記念講演「吉野作造 ―エスペラントの先駆者」

2012 年～　大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所外部評価委員会委員

2013 年 10 月 22 日　宮城県石巻高校において「文学部の学問　―言語学を例として」を講義

2014 年 2 月～　一般財団法人日本エスペラント協会評議員

2014 年 6 月 1 日 第 62 回関西エスペラント大会において講演「初期のエスペラント運動における観光」

2014 年 6 月 28 日　一般財団法人日本エスペラント協会「エスペラントの日」記念講演「続・エスペラント言語文化史の試み」

小泉政利

2004 年度～　NPO 法人 脳の世紀推進会議 会員

2010 年 7 月 28 日　公開講演「言葉を理解する脳の動き」東北大学オープン・キャンパス

2010 年度　筑波大学研究戦略イニシアティブ推進機構分野別評価委員

2011 年 7 月 2 日　公開講演「もろい男としぶとい女：ことばの認知脳科学」第 4 期斎理蔵の講座、丸森まちづくりンター

2011 年度　筑波大学研究戦略イニシアティブ推進機構分野別評価委員

2012 年 2 月 3 日　公開講演「ことばの認知脳科学：もろい男としぶとい女」、平成 23 年度第 8 回「高森塾」、高森市民センター

2012 年度 国立民族学博物館機関研究プロジェクト審査委員

2013 年度 東北大学広報誌『まなびの杜』2013 年夏号に「言葉遣いのユニバーサデザン」を寄稿

2013年度 東北大学全学教育広報誌『曙光』に「全学教育の意義とは
ー「言語としての手話入門」の実践からー」を寄稿

2013年8月23日 教員研修講演「言葉遣いのユニバーサルデザイン」宮城県立聴覚支援学校小牛田校

2014年度 「国立国語研究所第3期共同研究プロジェクト」外部有識者審査委員

2014年6月26日 出前授業, 秋田県立秋田南高等学校

2014年10月10日 公開講演「言語の語順と思考の順序」, 第31回東北大学リベラルアーツサロン, せんだいメディアテーク

Ⅵ 教員による学会役員等の引き受け状況（2010～2014年度）

千種眞一

日本歴史言語学会副会長（2011～2013年度）

日本歴史言語学会会長（2014年度以降）

後藤斉

日本ロマンス語学会理事（2001年度～現在）、編集委員長（2009年度～）

日本言語学会評議員（2009年度～）、第141回大会実行委員（2010年度）

Corpora, Editorial Board（2006年度～）

Esperanto Studies, editor

小泉政利

日本言語学会評議委員 （2006年度～）

Journal of East Asian Linguistics, Editorial Board （2006年度～2011年度）

日本言語学会広報委員 （2009年度～2011年度）

言語科学会運営委員 （2010年度～2013年度）

Studies in Language Sciences, Action Editor （2010年度～2013年度）

Language Acquisition, Editorial Board （2011年度～）

Ⅶ 教員の教育活動

（１）学内授業担当（2014年度）

１ 大学院授業担当

教授 千種眞一

1学期 言語学研究演習I 言語解析学研究演習I 課題研究

2学期 言語学研究演習II 言語解析学研究演習II 課題研究

教授 後藤斉

1学期　言語学研究演習 I　言語解析学研究演習 III　言語解析学特論 I
課題研究

2学期　言語学研究演習 II　言語解析学研究演習 III　言語解析学特論 II
課題研究

准教授　小泉政利

1学期　言語学研究演習 I　言語解析学研究演習Ⅴ　人文社会科学研究
課題研究

2学期　言語学研究演習 II　言語解析学研究演習Ⅵ　人文社会科学研究
課題研究

講師　池内正幸（非常勤講師・津田塾大学）

集中講義　言語学特論 I

講師　木村護郎クリストフ（非常勤講師・上智大学）

集中講義　言語学特論Ⅱ

２　学部授業担当

教授　千種眞一

3セメスター　現代言語学概論　現代言語学基礎演習

4セメスター　現代言語学概論

5セメスター　現代言語学演習　言語交流学演習

6セメスター　現代言語学演習　言語交流学演習

教授　後藤斉

3セメスター　音声学

4セメスター　音声学　現代言語学基礎演習

5セメスター　言語交流学各論　言語交流学演習

6セメスター　言語交流学各論　言語交流学演習

准教授　小泉政利

1セメスター　人文社会総論

3セメスター　現代言語学基礎講読

4セメスター　現代言語学基礎講読　人文社会科学総合

5セメスター　現代言語学演習　言語交流学演習

6セメスター　現代言語学演習　言語交流学演習

講師　池内正幸（非常勤講師・津田塾大学）

集中講義　現代言語学各論

講師　木村護郎クリストフ（非常勤講師・上智大学）

集中講義　現代言語学各論

３　共通科目・全学科目授業担当

准教授　小泉政利

1 セメスター　全学教育・カレントトピックス・言語としての手話入門

2 セメスター　全学教育・展開科目・言語学

全学教育・カレントトピックス・言語としての手話入門

全学教育・カレントトピックス・手話言語学

3 セメスター　全学教育・展開科目・言語学

２）他大学への出講（2010～2014 年度）

千種眞一　教授

2010 年度　宮城学院女子大学

2011 年度　宮城学院女子大学

2012 年度　宮城学院女子大学

2013 年度　宮城学院女子大学

2014 年度　宮城学院女子大学

後藤斉　教授

2010 年度　東京外国語大学、宮城教育大学

2011 年度　東京外国語大学、宮城教育大学

2012 年度　東京外国語大学、宮城教育大学

2013 年度　東京外国語大学、宮城教育大学

小泉政利　准教授

2010 年度　宮城学院女子大学、東北文化学園大学、東北学院大学

2011 年度　宮城学院女子大学、東北文化学園大学、東北学院大学、関西学院大学

2012 年度　宮城学院女子大学、東北文化学園大学、北海道大学

2013 年度　宮城学院女子大学、東北文化学園大学

2014 年度　宮城学院女子大学、東北文化学園大学

李惠正　助教

2011 年度　東北学院大学

2012 年度　東北学院大学

2013 年度　東北学院大学

2014 年度　東北学院大学